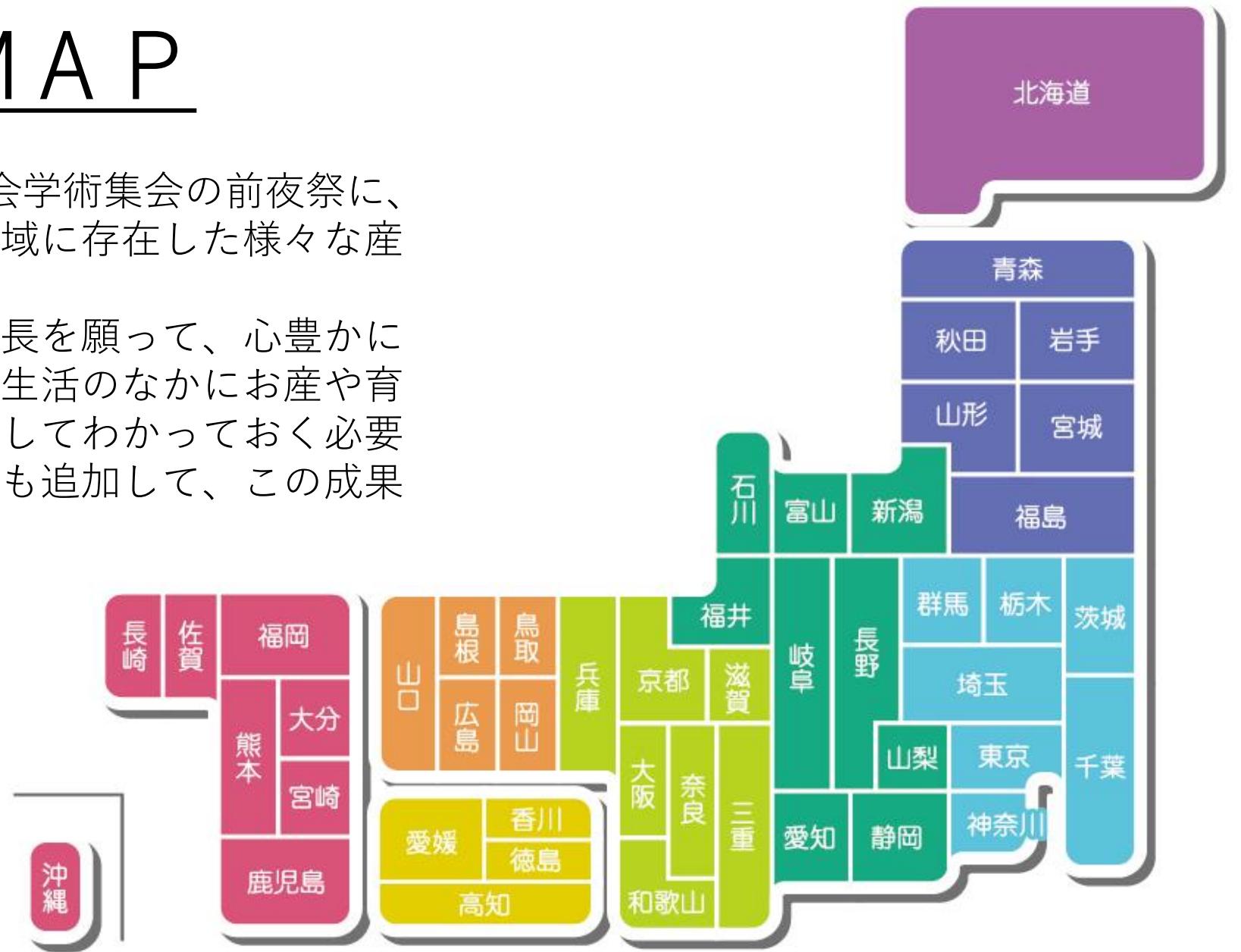


日本の産育習俗MAP

2021年3月19日、第35回日本助産学会学術集会の前夜祭に、全国から助産師学生が、古来その地域に存在した様々な産育習俗を発表しました。

人々が妊産婦の健康や子どもの成長を願って、心豊かに生活していたのが思い浮かびます。生活のなかにお産や育児が息づいていることを、助産師としてわかっておく必要があると思います。企画委員の調査も追加して、この成果としてマップにしてみました。

神社仏閣も調べて、発表がありました。写真等の掲載許可の関係上、割愛させていただきました。



参加学校一覧

- 新潟大学(新潟県)
- 新潟青陵大学(新潟県)
- 茨城県立医療大学 助産学専攻科(茨城県)
- 中林病院助産師学院(東京都)
- 湘南医療大学大学院(神奈川県)
- 昭和大学 助産学専攻科(神奈川県)
- 同志社女子大学 大学院(京都府)
- 大阪大学 大学院(大阪府)
- 神戸市看護大学 大学院(兵庫県)
- 愛媛県立医療技術大学 助産学専攻科(愛媛県)
- 高知大学 大学院(高知県)
- 鹿児島大学 大学院(鹿児島県)

北海道 東北地区

乳神神社（母乳授け）

浦幌神社の境内にあり、乳房の形をした乳石に祈願をすると母乳の出がよくなる。（企画委員）

北海道

西野神社（子宝・安産祈願）

犬の親子像がある。子宝祈願は、母犬の頭をなでる。安産祈願は、生まれてくる子どもの干支の子犬をなでる。（企画委員）

安産祈願

お産が長引くときは、箒を幌神社の境内にあり、乳房の形をした乳石に祈願をすると母乳の出がよくなる。（企画委員）

青森

秋田

岩手

山形

宮城

福島

胎児成長祈願

栗の双子を一人で食べると双子を産むといい、必ず二人で分け合って食べる（企画委員）

唐松神社（子宝・安産祈願）

天日宮に3つの岩があり、子宝・安産祈願のお参りでは、男性は右回りに進み玉銚石を撫で、女性は左回りで男石を撫でる。これを3回繰り返す。（企画委員）

胎児の性別

山の神に参詣して出産を祈願し、瞑目で小枕を探り、黄色の小枕を探しあてると男児、赤い小枕だと女児が産まれる（企画委員）

篠葉沢稻荷神社（安産祈願）

神社で御神枕をいただいて、出産の日までその枕を使うと安産になる。（企画委員）

関東地区

男女産み分け

女兒の姉妹で次に男児を希望するときには、女兒にアグリと命名すれば次に男児が生まれる。男児に女兒的な名前を付ければ次は女兒が、女兒に男児的な名前を付ければ、次は男児が産まれる。(企画委員)

三つ目のぼたもち

子が産まれて3日目に食べるぼたもち。食糧難の時代、母乳の出を良くするために、栄養豊富なもち米や小豆を使った大きなぼたもちを食べさせたことがはじまり
(茨城県立医療大学)

子育地藏堂

様々な病氣平癒開運として古くから地域の人に親しまれています。
(中林病院助産師学院)

菅原神社 (子授かり祈願)

奉納されている大小約90個の「子宝石」を抱くと子宝に恵まれると言われています。この「子宝石」を抱くことができるのは、春の例祭と秋の例祭の年2回だけです。
(企画委員)

中野沼袋氷川神社 (安産祈願)

珍しい子育て狛犬がいる。子供をあやしている狛犬を3度撫でるとお産が軽くなるという (企画委員)

三つ目のぼた餅

児が出生して3日目に祝い事として食べる風習があった。

帯締め団子

妊娠5か月の戌の日に安産を願って着帯の祝いとともに、現在も食べられている。(昭和大学)

鶴岡八幡宮

源頼朝の妻 北条政子が長男を懐妊した時、頼朝はたいそう喜び、政子のために、鶴岡八幡宮の参道を築造させたそうです。
破魔弓と矢から出る「ブーン」という音で魔除けをして、政子のお産を待ったという史実が「吾妻鏡」の記録に残っています。(湘南医療大学)



中部地区

優婆尊（安産祈願）

お参りをするときには赤いさらしの布を
いただいて腹帯にいれ、「おんはらま
にそわか」7回唱えるのが習わし。
（新潟大学）

別所飴地藏（母乳授かり）

本尊1体と子地藏64体が祀られている。
地藏の唇にアメを塗ると母乳の出が良く
なるという言い伝え。（新潟大学）

乳付け

アワセチチといって、縁結びのために1
回だけ乳をもらって飲ませていた。
（新潟大学）

妊娠中に禁忌な食べ物

- ・柿→毒があるため出産後100日は食
べない
- ・イカ→血があふれる
- ・タラ→体が冷える

母乳分泌への祈り

2枚の椿の葉の裏側にお米の摺(すり)
汁をのせて母乳がたくさん出ます
ようにとお参りした

子どもの病気

へその緒は、子どもが鼻をつまらせ
たときに細かく切って食べさせら
れと治る
（新潟青陵大学）

産谷

出産の折、十二把のワラを持ち込み、出
入口に魔除けとして古鎌を吊っていた。
七日籠って出産し、産後は三日三夜籠っ
ていた。（企画委員）

安産祈願

鶏の初卵を臨月の初めに食べると、お産
が軽い（企画委員）

子授かり

胎盤をぬくみのあるうちにまたぐと妊娠
する（企画委員）

安産祈願

2尺（約60cm）物さしを産婦に知られ
ないように産床の下に入れておく。
（企画委員）



関西地区

中山寺（子宝・安産祈願）

聖徳太子が建立したといわれ、古くから子宝・安産祈願の寺で知られる。戌の日にお参りし、腹帯やお札などをいただき、出産後に新しいさらしを納める。（神戸市看護大学）

乳付け・母乳

生後3日目の朝、近所で最近自分の子と反対の性別の子を産んだ人に乳を飲ませてもらった。これをアワセチチという。性を交差することで丈夫に育つという考えがあった。（大阪大学）

産毛そり

産毛は全部剃った。残すと罰があたるとされた。剃った毛を道に埋め、捨てていた。→残ると罰が当たるとされていた産毛を人に踏んでもらうことで、児が強くなるという考えがあった。（大阪大学）

幣羅坂神社

御祭神・天津少女命（あまつおとめのみこと）を祀る日本で唯一の神社。子どもの鼻をつまんで泣かせ、神様に声を聴かせる儀式があった。（同志社女子大学）

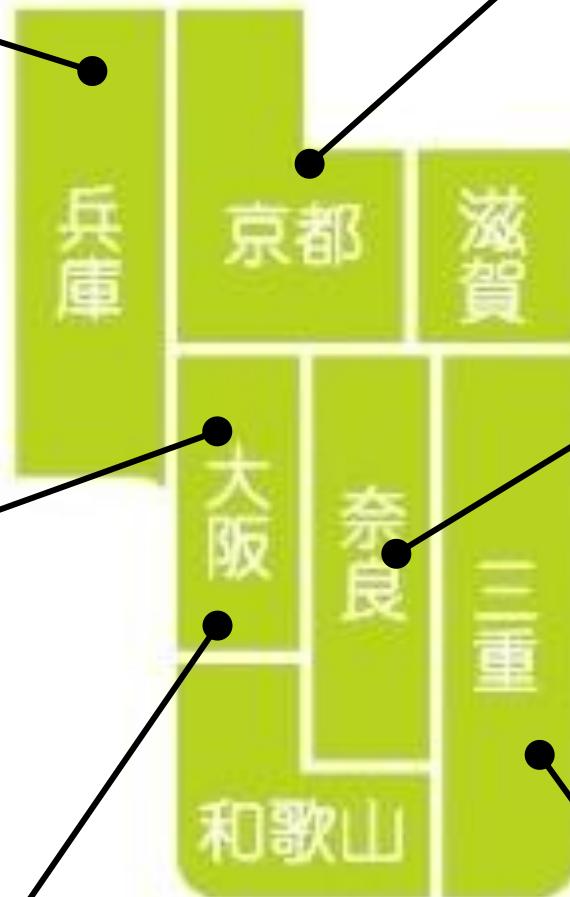
帯解寺（安産・求子祈願）

ご本尊の地蔵菩薩は、日本最古の求子安産の霊像であり、国の重要文化財に指定されています。（同志社女子大学）

白子山 子安観音寺

（安産祈願）

安産祈願の後にお守りなどと一緒に渡される「不断桜」の葉は、その裏表で、生まれてくる赤ちゃんの性別を占うことができます。表だと女の子、裏だと男の子だと言われています。（企画委員）



中国・四国 地区

母乳分泌促進

かき餅をカリカリ音を立てて噛むと、頭に血が上がるのを防ぎ、母乳の出がよくなる。(企画委員)

母乳分泌促進

団子汁を食べる
団子汁を1週間くらい食べると、悪血が早く降り、母乳の出がよくなる。(企画委員)

子授かり

他人の出産直後の胎盤をまたぐと妊娠する。(企画委員推薦)

松寿寺(子授かり)

樹齢500年の槐の大木があり、子宝のパワースポットになっています。根元に洞穴があり、そこを潜ると子宝に恵まれると云われています。(企画委員)

石手寺(子授かり・安産祈願)

鬼神母神の子宝石があり、ここの石を持ち帰ると子を授かると伝えられています。無事出産したら、その石に子どもの名前を書き、新しい別の石と一緒に寺に納める。(愛媛県立医療技術大学)

高忍日賣神社(安産・子育て祈願)

全国で唯一、産婆・乳母の祖神である(愛媛県立医療技術大学)

産後にチヌを食べる

悪い血をおろす。悪い血(チ)を抜く(ヌ)く。乳がよく出るようになる(愛媛県立医療技術大学)

種間帯解寺(安産祈願)

底の抜けた柄杓は産道を表します。「底抜けひしゃくのように何の引っ掛かりもなく、母子ともに無事なお産がありますように」との古からの願いが込められています。安産を願う妊婦が柄杓を寺に持参し、寺では柄杓の底を抜き、二夜三日安産祈願をする。祈願後の柄杓とお札を妊婦は受け取り、出産後に奉納します。(高知大学)



九州・沖縄 地区

禁忌事項

蕎麦を食べる→子どもにそばかすができる
青魚を食べる→子どもに湿疹ができる
死人を見る→生まれた子どもに黒あざができる (企画委員)

宇美八幡 (安産祈願)

子安の木 (槐) : その木の枝にすげれば安産する
子安の石 : “お産の鎮め”としてこの石を持ち帰り、出産後に別の新しい石に子どもの名前等を記して健やかなる成長を願い、預かった石と一緒にお納めする (企画委員)

乙姫神宮 (子授かり)

乙姫子安河原観音があり、男の子を授かりたい人は黒の石、女の子を授かりたい人は赤の石を河原から持ち帰り、股に挟んで寝ると必ず願いが叶う。願いが叶った人は石を返しに来る。
(企画委員)

鵜戸神宮 (母乳授かり)

「お乳岩」を触ったり、「お乳飴」をなめると母乳の出がよくなる (企画委員)

プチミジ

よもぎを煎じてヨモギ湯を作り、その汁で褥婦の全身を温めたり乳房にヨモギの葉や茎を当ててもむと産後の体が早く回復し、母乳が多く出て新生児が良く育つとして実行されてきました。
(鹿児島大学)

胎盤を埋める・食べる

出産後に出る胎盤を、わらに包んで軒下の人が歩かないようなところに埋めていた。昔は胎盤を部屋の隅に立てかけ1日3回水をかけ、3日目に夫が外に埋めていた。出産後すぐに胎盤を食べていた。
(鹿児島大学)

ユタによる祈祷 (妊娠・安産祈願)

琉球王朝時代、妊娠・安産祈願、水子供養にユタと呼ばれる職業霊能者のもとへ行って、祈願してもらっていた。(企画委員推薦)

タンカーユーエー育て (子授かり)

タンカーユーエー (満1歳のお祝い) を終えた子どもを預かり、自分の子のようにたいせつに育てると妊娠すると信じられていた。
(企画委員)

